

10th Anniversary



しろね図書館だより

十周年

No.123

発行 新潟市立白根図書館

新潟市南区田中383 電話 (025) 372-5510

平成22年8月発行

夏休み真っ只中の8月、
 たくさんのご来館
 ありがとうございます。
 先月の再開館から、
 しろね図書館のアツい夏は
 はじまりました。
 読書に！ 勉強に！ 癒しに！
 新しくなったカードを手に、
 どんどんご利用くださいませ。

ホームページが
 かわりました



しろね図書館のホームページは、
 公開を終了しました。
 これからは、新潟市立図書館の
 ホームページをご利用ください。

本をさがしたり、予約したりは、
 こちらからできます。

【ホームページアドレス】

<http://www.niigatacitylib.jp>

【ホームページケータイ】

<http://www.niigatacitylib.jp/k>

メールは、いままでどおり
 しろね図書館に直接届きます。

【メール】

shirone.cl@city.niigata.lg.jp

職場体験に
 ご協力を

夏休みは、中高生の
 職場体験のシーズンです。
 しろね図書館でも、何校かの
 受け入れが予定されています。
 カウンターなどで
 がんばっている姿を見かけたら、
 あたたかく見守ってあげてください。

申し上げます

暑中お見舞い



夏休みが始まる興奮も冷めやらぬ7月29日、
 「としょかんたんけん隊」が開催されました。

ヒミツのヴェールに隠された
 図書館のナゾを解き明かす冒険に、いざ出発！
 図書館のおねえさんにガイドしてもらいながら、
 本をさがしたり、クイズにチャレンジしたりもしました。

図書館は、ただ本を読んだり、
 借りたりするだけじゃありません。

「おもしろくて、ためになる」イベントが
 いろいろあるんですよ。

図書館だよりのほか、

「市報にいがた」や「みなみ風」に
 お知らせがのることがありますので、
 こちらも要チェック！



2010.7.29
 としょかんたんけん隊



としょかん、
 探検しちゃいました☆





蒲田行進曲

つか こうへい著
角川書店
B913.6 ツ

「んちキチン……ギィー、「いらっしゅい、あれ石口さん、久しぶりですね」
「やあ、スタン。覚えていてくれましたか」「はい、貧乏学生の石口さん」
「いや、参ったな、いつもの（お冷？まさか）」「何年、いや何十年ぶりでしょう？」
「30年ぶり、それ以上ですかね」「京都も変わったでしょう」「変わったね、
地下鉄なんかなかったよ。でも、この宵山の賑い変わらないね。四条の
橋なんて動けなくて」「そう、宵山ですからね。で、今何のお仕事を？」
「新潟市立白根図書館勤務です」「図書館……あ、向こうの壁際のお二人、
関西もの新進気鋭の作家、森見登美彦、万城目学さんですよ。ともに天下の京大出のお二人ですよ」「あのお二人が、本物？
ちょっと行っていいかな」「……、いいでしょう」
私も京都で4年間、学生生活を送ったんですよ。お二人の小説には
懐かしい京都の風物・地名が次から次へと出てきてうれしいですね。
それに、東大路通りの消滅の仕方、京阪電車から見る東福寺近くの
日赤病院の異形といった表現……、分かるんですよ、その感じが。
そして、そんな京都の街で、作中の学生達がうち等と同じようなことで
悩み、喜び、泣いて笑っているんですね。青春なんですよ。
4年間京都に住んでいれば、私にもそれなりに「京色」に染まった
小説の題材になりそうな出来事が幾つかあるんですよ。
例えば……、確か時代祭りだったと思う。わざわざ新潟から女性が、
それも2人も訪ねて来てくれたのだった。大学の友人が時代祭りに出ると
いうことで、勇んで女性をエスコートし平安神宮前の大路に陣取った。
「友達って、何の役なの？」「うーん、検非違使庁の長官だったりして」
なーんて言ったりしていたが、いつになっても来ない。とうとう、
主要な行列は通り過ぎていってしまった。

真夏の宵の夢・京づくし 宵山・鴨川万華鏡 ・ 「蒲田行進曲」



その時、私はハッとしました。
当時の私は視力が2.0、行列から遅れた一団が、
何やら道路に置かれたある物体を拾いながら来るのである。
それは行列の牛馬の排泄物を拾う謎の白装束の一団、
そこに見覚えのある顔が。そして友人も私同様視力は抜群！
「よお、石口！おなご連れて、何しとんのじゃ。ええアルバイト紹介して
やっとなのに」（徳島弁のつもり）……。
こんなのも……、夏の日友人が私の下宿へやって来て、4、5日はつら
かしておいた炊飯器の蓋を取って、びっくり！残ったご飯に
かびが生え、その色具合、こんもり感から三毛猫に見えたのだった。
それからである「新潟の人間は猫を、それも炊いて食いおる。」（香川弁の
つもり）と言われ出したのは……。どうです、森見さんこれ使えませんか？
万城目さん、これで念願の直木賞取れませんかね？
あれ、お二人の顔がきつねに見えて来て、あれ太陽の塔が揺れだし、
回り始めて万華鏡のような……。
ワン、ワン、ワーン、ホルモー、ウォー（ご主人、大丈夫ですか。熱中症、
それともぼけたの？犬の糞、踏みそうでしたよ。忠犬チヨビ）
おっ、危ういところであった。プリンセスチヨビ、大義であった。そうか夕方の
散歩中であったか。拙者、あまりの暑さに朦朧としたようじゃった。許せ、許
せ……。池田屋はまだか、血が騒ぐぞ。（妙に時代劇っぽくなってきた。
「蒲田行進曲」が好きだからな。早めに連れ帰ったほうが良さそうだ。チヨビの
独白）ギン、キャン、クーン、ワン、バク！（銀ちゃんかっこいいー、もう帰ろう！）
「ヤス、今何を言った。この主役の銀四郎に……」キャーーン！（やあ！）
御同輩、ご子息、ご令嬢を京都の大学に如何ですか。そしてご子息、
ご令嬢さんお仲間になられたご学友達に、毅然とした態度で話して
いただきたいのです。「新潟では猫は食べません」って。



鴨川ホルモー

万城目 学著
産業編集センター
913.6 マ

宵山万華鏡

森見 登美彦著
集英社
913.6 モ



7月のキロク



らいかんしゅ
来館者……………13,573人
かしたしさうすう
貸出冊数……………12,002冊
よやくけんすう
予約件数……………687件

※7月のブックパスは、お休みです。

※【予約ランキング】は、システム統合により
予約のしくみがかわったため終了させていただきます。

蔵書点検の結果

2010.6.30 - 7.11

臨時休館中、設備の入れ替えと平行して「蔵書点検」を行ないました。

蔵書数 128,165 点

一般 73,944 点

コミック 198 点

児童 37,189 点

郷土 4,293 点

ティーンズ 8,407 点

雑誌 1,933 点

なくなった資料 361 点

AV資料 2,201 点

次回の分を繰り上げて実施しましたので、来年2月の長期休館はありません。

『生と死が創るもの』

柳澤 桂子 著 (草思社)



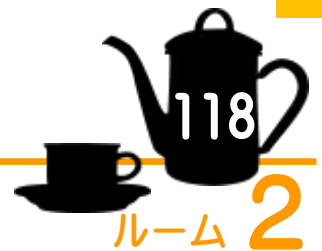
生命のしくみと、その不思議さを伝える生命科学者、柳澤桂子。彼女の死生観がいま、注目を集めています。病に倒れ、闘病生活の中から紡ぎ出される、一言、そしてまた一言。冷静な科学者としての視線と、いのちへの温かなまなざし。眼前に迫る死を見つめながら、生と死の意味を問い直すエッセイです。

★★★ 参加者の感想から ★★★

- ◆ 「鉛筆削り」や「最後の本」は著者の死と生者に対する思いのようなものが伝わってきた。サイエンティストという割に文章が平易で読みやすい印象を受けた。却って塩野七生の方が文章が硬いように思う。また、長年闘病生活を過ごしているせいなのか、感情が繊細でなんとなく共感できる部分が多かったように思う。
- ◆ 「鉛筆削り」の話は懐かしかった。今の子供たちでは考えられないだろう。
- ◆ 柳澤桂子の病名ははっきりせず、インターネットで検索しただけでも周期性嘔吐症候群、脊髄液減少症、反復うつ症候群、いろいろな病名が出てくる。彼女も著作の中で述べているが、病気の苦痛より医療機関から受ける苦痛の方が大きかったようである。
- ◆ 動物は心拍数によって寿命が決まるというのは驚いた。「ソウの時間、ネズミの時間」にも出てきたが、興味深い。
- ◆ ネズミの細胞分裂の話が出てきたときは改めて、生命の不思議さを感じた。彼女の感動が良く伝わってきた。
- ◆ 図解をしないで生命科学の解説書をかかなければなかったというくだりは、大変そうだと思った。一般の人向けに図を使わずにすべて文章で書くというのは、図解に慣れている科学者にとっては辛かったようである。ただ、訓練をつんでこの著作のように一般の、生命科学に関して知識の無い読者にもわかるように書けるようになるかわかった。
- ◆ 「文章はリズムが大切である」というのは、他の本を読んでいてもよくわかるものであった。(石田)

次回の読書会

8月15日(日) 14:00~



参加するのに申込は要りません。本は図書館カウンターにありますので、それを読んだら当日学習館2階のルーム2へおいでください。おいしいお茶とお菓子和楽しいトークが待っています★

アメリカひじき 火垂るの墓

野坂 昭如 著 (新潮社)

1945年9月21日、駅の構内で清太は死んだ。所持品のドロップ缶に収められた、白い骨にまつわる兄妹の悲しい記憶とは――。親を亡くした幼い兄妹が、終戦前後の混乱を生きぬこうとする姿を描いた「火垂るの墓」など、“焼跡闇市派”の異名をとる著者の代表作6編を収めた短編集です。

子どもたちといっしょに



ようかいせんはどこ?

(かがくのとも)

沼野正子 さく 福音館書店

作者の沼野さんが絵を描いた「おぼけのひっこし」(福音館書店) さがらあつこ/文 沼野正子/絵もおすすめです。



どうぞ、お子さんと一緒に楽しみください。

8

月、子どもたちは長期の休みに入り、暑く涼しくなってきました。夏休みにおじいちゃんのうちへ泊まりに来た兄弟がようかいさんへとでかけるおはなしです。日常のなかには不思議がいっぱいあります。説明できないもの、見聞違えから生まれたものなどきつとたくさんあるでしょう。そういったものを、なによりも信じて楽しむのが子どもたちかもしれません。子どもたちが大好きなこわいもの。あまりに怖いと楽しさも半減するかもしれませんが。楽しく、ほんのすこしだけおぼけや妖怪を知ってみよう。きつとみんなのまわりにも、たくさんいるかもしれないね。

しろね図書館では、8月7日にこわ〜いおはなし大会を開催します。絵本だけでなく、おはなしも語ります。これに合わせて館内では妖怪やおぼけの本を紹介しますので、どうぞご利用ください。



8月の展示架



白根学習館 × しろね図書館

特報!

かわいたココロにうるおいの1冊

LASPEC開館10周年記念講演会

9月25日(土)

白根学習館ラスペックホールにて

暑い日々が続きますね。水分補給をしっかりと、なんとか乗り切っていきたいものです。今回は、いくなれば「ココロの水分補給」。暑さを忘れるような涼しげな本や、気持ちが癒されるような本などいろいろ揃えました。これを読んで、かわいたココロとカラダをリフレッシュしましょう。

おかげさまで、LASPEC (ラスペック：しろね図書館が入っている建物) も開館して10周年を迎えることができました。これを記念して、講演会を開催します。

8/5~8/31の行事



8月7日(土) こわ〜いおはなし大会

8月21日(土) 絵本のじかん 14:10~ おはなし会 14:30~

8月14日(土) おはなしかご例会 10:00~ 絵本のじかん 14:10~ おはなし会 14:30~

8月25日(水) 雑誌リサイクル

8月15日(日) 読書会(ルム2) 14:00~

8月28日(土) おはなしかご例会 10:00~ 絵本のじかん 14:10~ おはなし会 14:30~

- ◆ 栗村節子氏 (元しろね図書館長) による記念講演
- ◆ 長野ヒデ子氏 × とよたかずひこ氏 絵本作家のおふたりが、絵本づくりについて語ります。
- ◆ 3氏によるミニシンポジウム ……などを予定しています。

くわしくは次号でお知らせします。ご期待ください!

運休 学校の夏休みの期間中はブックバスの運行をお休みさせていただきます。9月から再開予定です。